

記入例

系統解剖において、「臨床診断」は死亡診断書(死体検案書)を参照し死因を記入してください。また、「剖検診断」は空欄で差し支えありません。

胸腔及び腹腔を開検し、頭蓋腔を開検していない場合は、備考欄にその旨を必ず記入してください。

解剖調書 (系統・病理) 法医

[illegible]

下記の(注意)を必ずお読み頂き、
ご記入お願いいたします。

(注意)

- 1 系統・病理・法医の別については該当するものを○で囲むこと。
2 「死体番号」とは解剖記録等に記載されている番号であること。
3 本調書に記載される全ての解剖例について、申請者自らが頭蓋腔、胸腔及び腹腔を開検し、解剖報告書等を作成していることを要する。
4 必要に応じて、解剖報告書等の提出を求めることがあるため、申請者において解剖報告書の写しを保管しておくこと。
5 頭蓋腔を開検せず、胸腔及び腹腔を開検した解剖例に記載する際は、備考にその旨を記載すること。
6 医師及び歯科医師については直近の5年以内の20体に係るものを記入すること。
7 医師又は歯科医師以外の者については年次ごとに別表とし、直近の5年以内の50体に係るものを記入すること。